

大阪は「まち」がほんまにおもしろい

大阪あそび歩

OSAKA ASOBO

平成すみのえの津漫遊記 ～コスモスクエア、咲洲から海浜緑地、海の時空館まで～

朝鮮半島・中国大陸(シルクロード)など外交や交易の玄関口だったすみのえの津。源氏物語や一寸法師伝説の古今の物語にも登場し、豊かな自然と美しい景観で数多くの歌が詠まれてきました。義経や信長、「フロロシア」など、歴史の移り変わりの舞台である平成のすみのえの津(咲洲)から歴史の歩みを漫遊しましょう。



大開門の赤灯台と白灯台
平成21年12月にパナマ船が突風にあおられ土台と衝突したため現在傾いています。

咲洲と夢洲の間の大阪港の入口を大開門と呼び、その両端に赤い灯台と白い灯台が建てられています。この2本の間に落ちる夕陽がきれいなので、夕陽スポットとしても有名です。

南港野鳥園
実は、ここは昔から、この辺りは、干潟が広がり野鳥たちが暮らしていた。渡り鳥の津」として有名でした。疲れた体を豊富な食糧で回復し、又飛び立ちゆく姿の見える、白砂青松の美しい江に、

7 なにわの海の時空館
ゴール

6 古代船「なみはや」
一本の米がとくり抜いて造られている。

アートグレイス・ウェディング・コースト
この辺りから見ると運河が左右にカーブしているのが一見、アイランド

森宮宮
運河沿いに遊歩道があります。

8 コスモスクエア駅
地下鉄とニュートラムの乗りかえ駅です。

5 シーサイドコスモ
海辺の空間として憩いの場(なぎさ海道)となっています。海を眺めれば、港区の天保山、此花区のUSJ(ときには花火の音も聞こえます)、貯蔵タンク、此花大橋、舞洲のスラッジセンター、舞洲工場、夢洲大橋、ゆつたりと進む異国のコンテナ船など、現代のパノラマが広がりますが、この大阪湾(シーサイド)は戦国時代、信長の鉄甲船と毛利水軍が激突し(木津川口の戦い)、江戸時代は天下の台所・大坂の物資流通の拠点となり、「出船千艘入船千艘」と言われるほど、大小さまざまな船で埋め尽くされました。まさに歴史の移り変わりを映した時代の絵巻物です。遠くは六甲山脈、明石大橋、淡路島なども見えて、沈みゆく夕陽の光景は雄大なロマンを感じさせてくれます。

4 森宮宮
運河沿いに遊歩道があります。

3 WTCコスモタワー
改札口
出た右の階層

2 南港オズ岸壁と大阪南港コスモフェリーターミナル

1 南港とATC

何やハイカラな遊もんなやなあ。
異国に行くための関所みたいなところいわ。

国際フェリーターミナル
安藤忠雄氏の個性的な建物

① 南港とATC (アジア太平洋トレードセンター)
昭和8年(1933)、木津川河口にあった飛行場の移転計画で南港の埋立てが始まりましたが、戦争のため中断。昭和33年(1958)にアラビア石油の石油コンビナート進出が予定されて再開が進みましたが、国の石油政策見直しで昭和39年(1964)、アラビア石油が進出を断念しました。その後、港湾用地と住宅用地として土地利用する計画となり、現在の南港・南港ポートタウン・南港ニュータウンが誕生しました。約1億4千万立方メートルの土砂(ダンクカー1日1000台で運んでも約55年かかる)が埋め立てられたといわれています。平成6年(1994)年には貿易のトレードセンターとしてATCがオープン。ショールームやレストラン、輸入品ショップ等のほかに「おおさかATCグリーンエコプラザ」と「ATCエイレスセンター」(ITM棟11階)があり、環境問題や健康・福祉・介護機器の常設展示場があります。ATCは平成7年(1995)第15回大阪まちなみ賞「大阪市長賞」受賞。

② 南港オズ岸壁と大阪南港コスモフェリーターミナル
ATC西側の全長450メートルの南港オズ岸壁は南国情緒あふれる空間で、若者達や家族連れで賑わい、日本で唯一、一般市民が航海体験できる帆船「あこがれ」が保留されています。また毎年1月に大阪市消防局の出初式が海上と岸壁にてとり行なわれます。隣接する大阪南港コスモフェリーターミナルは平成20年(2008)7月8日オープンで、「フェリーさんぶらわあ」が運行しています。平成22年4月現在では南港～別府、また季節便で南港～小豆島があります。かつてすみのえの津から遣隋使・遣唐使が大陸へと出発しましたが、その時代に思いを馳せ、船旅に出るのも一興でしょう。

③ WTCコスモタワー (大阪ワールドトレードセンター)
コスモスクエア地区のシンボルとして、西日本一の高さ(地上256メートル)を誇るWTCコスモタワー。平成7年(1995)4月にオープンとなり、55階の展望台からの360度の眺めは格別の景色です(展望台「TOP OF THE BAY」は有料)。45階の大阪港広報サテライト(平日9時～17時利用無料)からも大阪湾内から西側の景色(明石側)が一望でき、パネルと南港ジオラマといった展示品もあります。喫茶室からは南側の景色(開空側)が見えます。平成8年(1996)第16回大阪まちなみ賞「大阪市長賞」受賞。

④ 咲洲キャナルと森ノ宮医療大学
咲洲キャナルは海水を取り入れた運河で、コスモスクエア地区内を流れ、東西にゆるやかなカーブを描く親水空間です。水辺の散策が楽しめますが、運が良ければキャナルの中の星を見つけることができます。また咲洲キャナル沿いの森ノ宮医療大学は平成20年(2008)第1回おおさか優良緑化賞・大阪府知事賞を受賞し、隣接する咲洲キャナルと遊歩道を景観にうまく取り入れた、白い壁と周りの緑のコントラストが美しい建物です。

⑤ シーサイドコスモ
海辺の空間として憩いの場(なぎさ海道)となっています。海を眺めれば、港区の天保山、此花区のUSJ(ときには花火の音も聞こえます)、貯蔵タンク、此花大橋、舞洲のスラッジセンター、舞洲工場、夢洲大橋、ゆつたりと進む異国のコンテナ船など、現代のパノラマが広がりますが、この大阪湾(シーサイド)は戦国時代、信長の鉄甲船と毛利水軍が激突し(木津川口の戦い)、江戸時代は天下の台所・大坂の物資流通の拠点となり、「出船千艘入船千艘」と言われるほど、大小さまざまな船で埋め尽くされました。まさに歴史の移り変わりを映した時代の絵巻物です。遠くは六甲山脈、明石大橋、淡路島なども見えて、沈みゆく夕陽の光景は雄大なロマンを感じさせてくれます。

⑥ 古代船「なみはや」
古代船「なみはや」は平野長原遺跡高廻り2号噴出土の船形埴輪をモデルとして復元された準構造船です。「倭の五王」時代の航海を再現しようと、大阪港から韓国釜山への実験航海にも成功しました。すみのえの津では、5世紀にはすでに、こうした船の往来があり、大陸からの文明や文化を伝える国際港でした。また当時の中央政府があった飛鳥地方や平城京からみても、もっとも近い港湾であり、古代国家にとって最重要拠点でした。

⑦ なにわの海の時空館
平成12年(2000)7月開館。ユニークな形のガラス張りの建物は大阪港のランドマークで、平成14年(2002)には英国構造技術者協会から「StructuralSpecialAward2002」を受賞しました。設計はポール・アンドルー氏(フランス人設計家)です。時空館前は大阪港の主要入口となっており、帆船や外国の客船も多数寄港し、白い灯台と赤い灯台が船舶の航行安全を見守っています。館内には江戸時代に活躍した菱垣廻船(千石積級)を実物大で復元した「浪華丸」があります。浪華丸は平成11年(1999)7月から数日間、大阪湾内を海上帆走試験した後、当館に展示されました。2010年春からリニューアルオープンしています。

【注意事項】この地図は「大阪あそび歩」のまち歩き資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。
【お問い合わせ】大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそび歩」事務局 電話06-6282-5930(財団法人大阪コンベンション協会内)「大阪あそび歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。http://www.osaka-asobo.jp または「大阪あそび歩」でネット検索を。
大阪あそび歩のコースは約2~3km、2~3時間程度を基準として作成されています。